



撮影協力：九州の旬 博多店 ☎092-687-5656

村仲ともみの
教えて!ドクター
～ずっと美食を続けるための健康講座～

構成/葉山巧 撮影/近藤さくら

ゲスト 竹原佳彦さん

ふくおか胃腸クリニック院長

大腸がんの早期発見で、 永く楽しい美食生活を!

村仲 日頃からグルメリライフを満喫中の私ですが、最近聞いたニュースがどうにも気になって。先生、いま大腸がんが増えているんですって？

竹原 はい。ここ数年、女性のがん死亡者数のトップを占めているのがこれなんです(男性は3位)。

村仲 そうなんですか！ 食生活の欧米化が原因らしいですけど。

竹原 もともと日本は塩分が多めの食習慣で胃がんとの関連が指摘されてきましたが、そこへ動物性タンパク質や脂肪の多い食事が加わりましてたからね。中高年の方の割合が高い病気ですが、若い方にも増えていきます。がん化するリスクの高い大腸ポリープも同様ですね。

村仲 うーん、和食も洋食も大好きな私には耳が痛いような。効果的な予防策はあるんですか。

竹原 これといった確実なものはありません。遺伝的素因が言われているので、ご家族に患者さんをお持ちの方は、積極的に検診や検査を受けられることをおすすめします。

村仲 症状や前兆のようなものは？

竹原 進行すると便に潜血が混じるので潜血反応検査で分かる場合もあります。ただ怖いのは、自覚症状のないケースが多いこと。先日も健康そうな30代の方の検査でがんが見つかり、私たちも驚きました。

村仲 やっぱり検査に勝る予防策はないんですか。

竹原 その通りです。ただ便の潜血反応はあくまで一次検査であって、正確な診断ができません。40歳以上、できれば35歳を過ぎたら一度は内視鏡検査をお勧めします。

村仲 よく知人から「きつい検査だったよ」と聞かされるアレですか(笑)。私、苦しいのや痛いのがすごく苦手。

竹原 当院では安定剤を点滴して検査を行い、眠っているような状態の間に終わりますから大丈夫ですよ。

村仲 えっ、本当に？



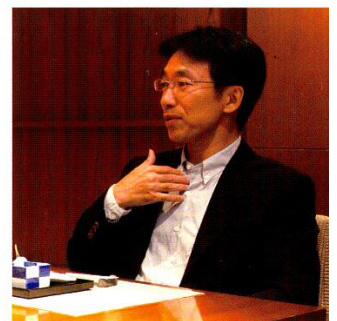
竹原 もちろん安定剤だけに頼るのではなく、体に負担の少ない内視鏡の挿入法で、二酸化炭素送気という検査後のお腹の張りが少ない方法を用いるなど、いろいろな工夫も行っています。終了後は別室で自然に覚醒するまでゆっくり休憩、スッキリした気分でご帰宅いただけますよ。

村仲 何かサロンのようなイメージを浮かべてしまいました。

竹原 実際そうおっしゃる方もいますね。ひと昔前に比べて気軽に受けられる検査環境になったと思います。

村仲 はあ。そんなことになっていたらと知りませんでした。

竹原 私たちのような専門クリニックがもっと啓発に努力しないとダメですね。



村仲 すごく頼もしい存在ですよ。

竹原 大事なのは「来年も受けてみよう」と思われる楽な検査を施すことです。これは医療側の責務だと私は考えています。それにゆくり進行する大腸がんは早く見つかるほど完治率が高く、小さいものなら内視鏡検査時に切除も可能です。

村仲 手術が要らないんですか。

竹原 早く見つかれば身体的にも経済的にも負担が軽い、というメリットは大きいですよ。

村仲 「ソワニエ」読者の皆さんも同じだと思うけど、私、これからはもっと健康で外食を楽しんでいきたい。それには、もっとこういう検査に積極的に関わるべきなんだと実感しました。

竹原 はい。村仲さんのグルメリポイントファンの私としても、そうあることを願っております。

医療法人 雄心会

ふくおか胃腸クリニック 胃腸科・内科 092-272-1711

院長 竹原 佳彦 日本消化器内視鏡学会 専門医

呉服町交差点 呉服町ビジネスセンター2F

ふくおか胃腸

検索